

稲盛経営哲学研究センター
【2016年度 活動計画】

第Ⅰ部 研究部門

第Ⅱ部 教育実践研究部門

1. 第2期（2016年度）研究活動

1-1. 稲盛経営哲学に基づく企業経営

京セラ、KDDI、JAL、盛和塾塾生企業から学び、企業経営の有り様、優位性、実践方法を解明して、稲盛経営哲学に基づく企業経営がより多くの企業で正しく実践されるようにする。

活動区分	学術分野	担当者	概要	12月国際シンポ	国際学術誌
センター 主導研究 (継続)	経営組織	崔裕眞（立命館）、 野中郁次郎（一橋大）、 廣瀬文乃（立教大）	京セラのフラクタル化（分身づくり、一体感、知識共創、実践知経営）はどこまで進んでいるのか？京セラ経営における知識創造の特性をナレッジサーベイにより解明し、稲盛経営哲学の有効性を明らかにする。	○	○
センター 主導研究 (継続)	人間科学/ 心理学	山浦一保、サトウ タツヤ（立命館）、 河野達仁（東北 大）	JALの経営再建で従業員の意識はどう変わったのか？意識改革の主体的行動、ビジョン創造への取組は普遍的なものか？京セラ、KDDI、JAL等へのアンケートにより、心理的側面から解明し、意識改革を企業業績に効果的につなげることを可能にする。	○	○
センター 主導研究 (継続)	人間科学/ 教育学	金井文宏、谷口悦 子（立命館）	フィロソフィを学びあう場としての教育プラットフォームをJAL従業員へのインタビューという手法により解明し、より効果的に経営哲学を浸透させることを可能にする。	○	○
センター 主導研究 (新規)	心理学/ 経営史/ 文化人類学	サトウタツヤ、崔 裕眞、澤野美智子 （立命館）	盛和塾塾生の稲盛経営哲学受容の過程やその業績への効果を、インタビュー及び参与観察により解明することで、中小企業経営者への効果的な浸透・展開を可能とする。	中間報告	○
国内外 推薦研究 (新規)	経営学	ジョンウィルソン （ニューカッスル 大）他	経営哲学・企業文化の変化の組織への影響を記述する方法を開発し、英国企業に適用することで、稲盛経営哲学を英国企業に周知する。	中間報告	○
研究会	経営学	研究センター、立 命館内外の有志	利他の実践例や経営12カ条などについての有志による研究会を行うことで、稲盛経営哲学に基づく企業経営の全体像を明らかにし、京セラ経営研究所と共同で、経営12カ条を中心として、アメーバ経営や会計8原則などとの関係にも言及した京セラ経営書籍出版の可能性を探る。	—	—

1-2. 稲盛経営哲学を規範・理念とする市場経済

現在の市場経済の限界・欠陥を解明し、行き過ぎた利己を抑制し、競争による活性化と利他を両立する市場及び金融、経済の仕組みを提示する。その基礎として、市場経済における人間の思考、行動の特性・仕組みを解明する。

活動区分	学術分野	担当者	概要	12月国際シンポ	国際学術誌
講演会	経済学	堀内勉（元森ビルCFO）	資本主義の教養学（資本主義研究会）主催者、「ファイナンスの哲学：ファイナンスと資本主義を理解するための基本知識」著者の講演会を計画。経済学分野では、研究プロジェクト実施の段階に至っていないため、市場経済の限界・欠陥の分析、その克服のための発想を学習し、研究テーマ設定につなげる。	—	—
国際シンポジウム 基調講演	経済学	未定	現在の市場経済について、特にグローバル化や新自由主義の課題を学習するために、経済学者による基調講演を行う市場経済の限界・欠陥の分析、その克服のための発想を学習し、研究テーマ設定につなげる。国際共同研究の可能性を探る。	○	—
センター 主導研究 （新規）	経営学/ 経済学	樋原伸彦（早稲田）、青山敦（立命館）	稲盛経営哲学の中で語られる企業家戦略がどのように実行されてきたのかを解明し、経済学のメインストリームの理論からも、優位性があることを実証することで、その実践を拡大促進する。	中間報告	○
国内外 推薦研究 （新規）	脳科学	山岸典子（情報通信研究機構）、Anthony I. Jack（ケースウェスタンリザーブ大）他	「利他」「足るを知る」はどこから来るのか？認知心理学、脳イメージング技術、神経倫理学、神経経済学の手法を用いて、経済活動に関する人間の特性の神経科学的仕組みを解明することで、行き過ぎた利己を抑制する市場及び金融、経済の仕組みの研究の基礎とする。京都大学こころの未来研究センターなどと共同した研究の可能性を探る。	中間報告	○

1-3. 稲盛経営哲学に基づく生き方・考え方

稲盛経営哲学を経営という範囲を超えて、より普遍的な人間の考え方、生き方として表現する。そのために稲盛経営哲学の本質に迫る哲学的探求を行う。

活動区分	学術分野	担当者	概要	12月国際シンポ	国際学術誌
センター 主導研究 (継続)	哲学	中島隆博（東大）、青山敦（立命館）	稲盛経営哲学の源流の創生の過程の探求として、稲盛名誉会長とのコンパや著書の分析により、東洋・西洋の思想哲学、石門心学など日本の思想、戦後に勃興した企業経営者の思想などとの関連性を探る。 第1回国際シンポジウムで中間報告したが、さらに分析を加えJournal of Business Ethics等学術誌に掲載し、稲盛経営哲学を世界に問う。	—	○
センター 主導研究 (新規)	哲学／ 経済学	中島隆博（東大）、青山敦（立命館）	市場経済や資本主義の形態は倫理観などの哲学的課題と密接な関係を持つ。「資本主義と倫理（仮称）」のテーマで、国内外の哲学者を招へいたワークショップを今秋に開催。参加予定者は、張政遠教授（香港中文大）、ロジャーエイムズ教授（ハワイ大）、小野塚知二教授（東大）など。市場経済と関連の深い哲学的課題を抽出・明確化することで、この分野での新たな哲学的探求の呼び水とする。ワークショップでの議論及びワークショップ参加者からの提出資料を取りまとめてブックレットとして発行する。	○	未定
国際シン ポジウム 基調講演	哲学／ 経済学	チャン・シュートン（ニューヨーク大／北京大）	東アジアの近代化や中国文学、中国文化を専門とする哲学者による、「混乱と危機が切迫している世界に対してどのように知の行為が可能か」についての基調講演を行う。 危機に瀕している現代文明に対して哲学分野で何が可能かを探求し、国際共同研究の可能性を探る。	○	—

1-4. 稲盛経営哲学を理解・実践する人材育成

新たな経営・教育・社会の有り様の模索の中心となるのは、稲盛経営哲学を理解し、それを個人としての考え方・生き方の規範とするだけでなく、企業経営や組織運営において実践する人材である。小中高生教育はRITA LABOが担当するので、研究部門は、主に社会人、大学生、大学院生を対象とした人材、リーダーの養成方法を研究する。

活動区分	学術分野	担当者	概要
可能性検討	全て	青山敦、崔裕眞、倉石寛（立命館）、鹿児島大学稲盛アカデミー、盛和塾	<p>既に大学生・社会人向け教育を実践している鹿児島大学稲盛アカデミーと協力して、大学・大学院教育プログラムの開発、実施の可能性を検討する。そのために先行的に大学生向けのセミナーなどを計画する。経営者向け教育プログラムについては、盛和塾との協力の可能性も検討する。</p> <p>将来的には学位授与プログラムも検討する。提供科目例を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆稲盛経営哲学を規範・理念とする市場経済 ◆稲盛経営哲学に基づく企業経営 ◆経営12カ条とリーダーシップ ◆アメーバ経営管理と全員参加経営 ◆稲盛経営哲学事例研究 ◆稲盛経営哲学に基づく生き方・考え方
可能性検討	全て	青山敦、崔裕眞、倉石寛（立命館）、稲盛和夫（北京）管理顧問有限公司など	<p>中国は、盛和塾塾生企業も多く学習意欲も高い。稲盛和夫（北京）管理顧問有限公司などと協力して、中国において稲盛経営哲学を理解・実践する人材育成を行うための社会人も対象に含めた大学・大学院レベルの教育プログラムの開発、実践の検討を行う。</p>

2. 第2期のための研究体制強化

研究センター研究員に新たに加えることで、研究分野の拡大・推進、教育展開、情報基盤の整備、啓発活動活性化などの体制を強化する。

研究員	概要	使命
樋原伸彦	早稲田ビジネススクール准教授、稲盛フェロー6期生	稲盛経営哲学の経済的合理性の研究、経済学分野の強化。
澤野美智子	本研究センター専門研究員	中小企業（盛和塾）における稲盛経営哲学の浸透プロセスを訪問・ヒアリングにて調査・研究。若手研究者の育成。
長谷川昭	立命館小学校副校長	学校運営・組織マネジメントの観点から稲盛経営哲学に関わる調査研究を行う。教員力量の向上に取り組む。
木谷重幸	京セラ(株)総務人事本部フィロソフィ教育推進部経営研究部責任者	今後の研究を推進するに当たり、必須となる稲盛名誉会長の膨大な関連著作物のデータベース化の検討の支援。経営12カ条や「利他の心」など重要な概念、京セラ経営学習の支援。

下記研究組織等と連携協定等を締結して、研究・教育における協力体制を強化する。

協力分野	組織	概要
経営研究	ニューカッスル大学	稲盛経営哲学の英国における周知。英国企業への適用可能性研究。
経営研究	リヨン経営大学	経営哲学、経営倫理の研究協力。研究者、学生の交流
倫理／脳科学研究	ケースウェスタンリザーブ大学	経営倫理の研究協力。人間の倫理的特性への脳科学的アプローチによる研究
教育開発、実践	稲盛和夫（北京）管理顧問有限公司 北京大学	社会人も対象に含めた大学・大学院レベルの教育プログラムの開発、実践
教育開発、実践	鹿児島大学	社会人も対象に含めた大学・大学院レベルの教育プログラムの開発、実践

3. 第2回国際シンポジウム

- ◆ 経済学及び哲学分野の基調講演を行い分野の幅を広げる。
- ◆ 国際展開において重要な中国からの基調講演を行う。
- ◆ テーマ：稲盛経営哲学に基づく社会の実現に向けて

日時：12月8日（木） シンポジウム 9：40～18：00

場所：立命館いばらきフューチャープラザ 3階 コロキウム

規模：約180名の参加を予定

内容：稲盛名誉研究センター長ご挨拶

基調講演 楊壯教授（北京大）

広井良典教授（京都大学）

第1期研究プロジェクト成果報告

第2期研究プロジェクト中間報告

パネル・ディスカッション

4. 研究活動の発展について

		第1期 (2015年度)	第2期 (2016年度)	第3期～ (2017年度以降)
研究プロジェクト	件数	センター主導研究4件	前年度からの継続を含めセンター主導研究6件、国内外推薦研究2件、学内公募研究を含め10件程度	年間10件程度 綿密な進捗管理により、学術誌への掲載、国際学会での発表等アウトプットを求めている
	分野	経営学、心理学、哲学の3分野	従来分野に加えて、脳科学、文化人類学の5分野	経済学なども含め学術分野の拡充を図る
	招へい 研究員	0名	国内からの招へい研究員1名	海外からの招へい研究員を強化。全体で年間のべ3名程度
国際・国内連携		基調講演の講演者と国際共同研究の検討	英国、米国との研究2件。 中国での教育における協力検討。 鹿児島大学との教育での協力検討	共同研究や研究員、学生の交流など拡大し、稲盛経営哲学研究の世界的ハブを目指す。
国際シンポジウム		経営学中心に海外からの基調講演3件	経済学、哲学など基調講演のテーマを広げる。中国からの基調講演を含め3件	多様な分野の稲盛経営哲学に関連する研究者の議論・交流の場とする。海外での開催も検討する。
研究会・講演会		研究会4回開催、講演会2回開催	研究会を年間5回程度定期的に行う。講演会、ワークショップも年間2回程度開催する	稲盛経営哲学の認知度向上、理解深化のために定期的に行う。成果の出版も検討する。

第Ⅱ部 教育実践研究部門

第2期（2016年度）の教育実践研究活動

1. 基本的な考え方
2. 稲盛経営哲学の教育への展開イメージ
3. ①稲盛和夫氏のフィロソフィを具現化する教材開発・授業実施
②リーダ育成研修プログラムの開発・実施
③学校改革のモデル化
④利他フィロソフィに基づく協働研究者の獲得
⑤活動の普及と研究拠点づくり（教育普及事業）

第2期（2016年度）の教育実践研究活動

1. 基本的な考え方

2015年度にスタートした稲盛経営哲学の教育実践研究をさらにすすめる。立命館附属校における試行・定着化を図り、他公私立校、企業・市民へと普及させていく。

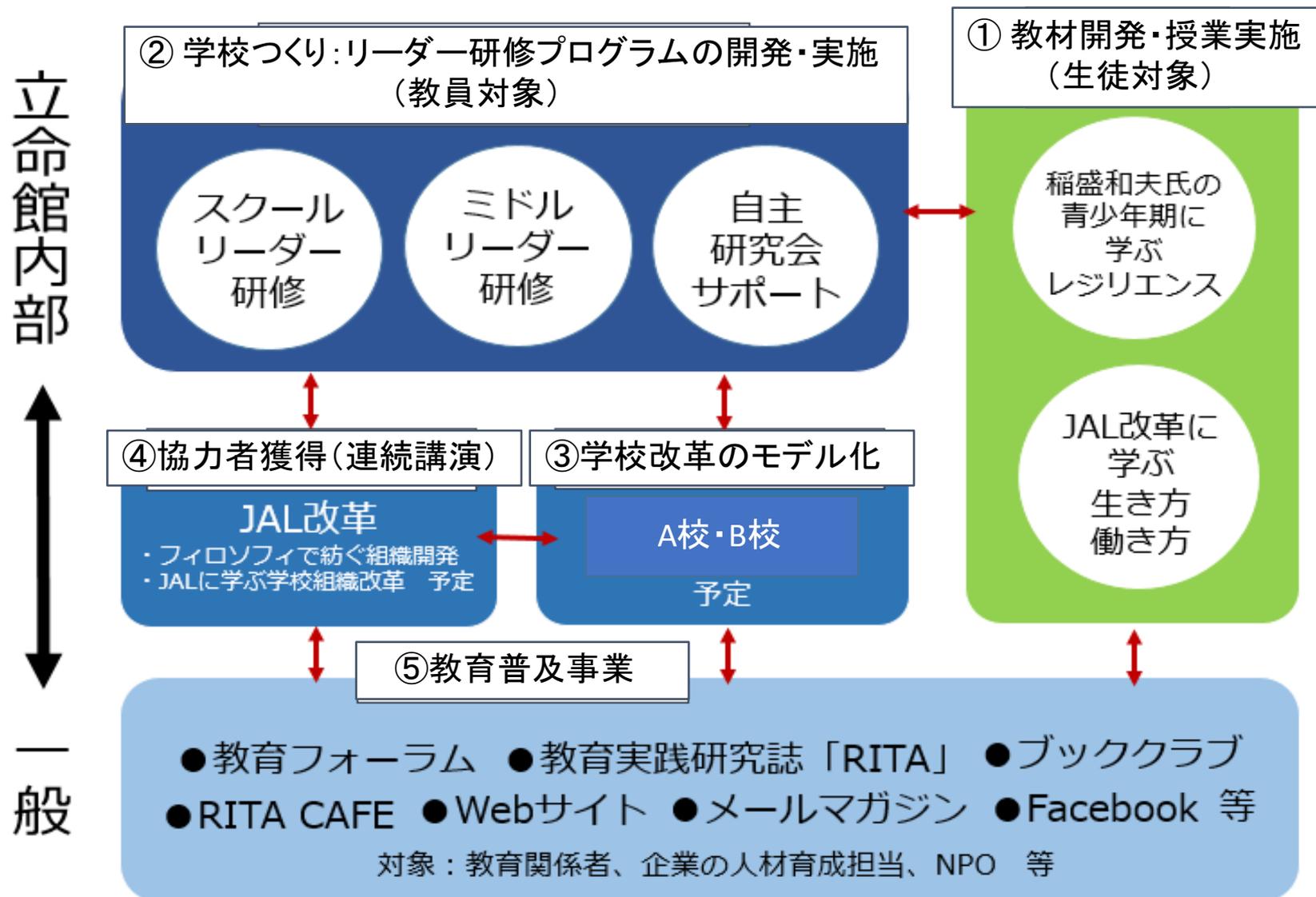
具体的には

- ①稲盛和夫氏の経営哲学を具現化する教材の開発・授業実施（生徒向け）
- ②リーダー研修プログラムの開発・実施（立命館附属校教員向け）
意欲的に教育実践を行う教員の組織化（一貫教育部と連携強化）
- ③フィロソフィ教育による学校単位での学校改革のモデル化
- ④全国の協働研究協力者の獲得（連続講演）

さらに

- ⑤上記の教育普及活動（ブッククラブ・リタカフェ・教育実践研究誌「RITA」やWebサイト等）を行うことで、広く公私立校の教員や教育に関心を有する企業人・市民の参加を促進し（パートナー、サポート研究員）、RITALABOを「利他の心を核とした、フィロソフィ教育による学校創造・授業づくりの研究拠点」として確立する。

2. 稲盛経営哲学の教育への展開イメージ



3. ①稲盛和夫氏の経営哲学を具現化する教材開発・授業実施

【Motivation（学びのモチベーションとリーダーシップを育てる）】

1) 「利他の心を育てる授業」

「道徳」他

→立命館小学校での道徳の授業を中心に、人を思いやる利他の心を育てる授業案・教材を開発する。
また従来の班活動を「アメーバ活動」として児童の主体性をより重視した活動形態に転換するなど
人格形成に大きな影響を与える幼少期における新たな教育プログラムを開発する。

2) 「稲盛和夫氏の青少年期に学ぶレジリエンス授業」…心理学・経営学

「国語科」「道徳」

→2015年度立命館中学校、甲南女子大学で試行した「レジリエンス」の授業実践をもとに制作したテキスト、ワークブックを利用した立命館附属校～他の公立校での授業実施を通し授業案を完成させる。
※「レジリエンス」については、大阪大学 大学院医学系研究科（公衆衛生学教室）／コミュニケーション・デザインセンター 平井啓准教授（専門：健康心理学,行動医学,緩和医療学,サイコオンコロジー等）の協力のもと、企業やがん患者への問題解決療法（認知行動療法的一种）及び大学生向けの問題解決に関する講義を参考とした教材づくりを行い、授業を実施する。

＜実施予定校＞ ・立命館中学校 中1 道徳（全クラス）、立命館守山中学校 中1 道徳（全クラス）

3) 「JAL改革に学ぶ働き方」…経営学・心理学

「公民科（政治経済・現代社会）」「キャリア教育（キャリア・サービス・ラーニング）」

→2015年度制作した教材を立命館附属校で試行実践し、授業案として完成させる。また、JALが協力している高校の経営教育プログラムを参考として、企業現場をフィールドワークするプログラムの検討も進める。

※立命館宇治高校の酒井淳平教諭と連携している株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（「リクナビ進学 キャリア・ガイダンス」「受験サプリ」等をWebを中心に展開）との協力のもと授業を実践し、授業案を完成する。

＜実施予定校＞ ・立命館宇治高校 高1 キャリア教育（全クラス）
・立命館守山中学校 中1 道徳（全クラス）

3. ②稲盛経営哲学に基づくリーダー育成研修プログラムの開発・実施 (教員対象)

【Learning Organization (学びを変革する教育組織をつくる)】

1) 京セラ(株)・JALにおける社内教育の調査・研究

→2015年度実施した「JAL意識・改革教育プラットフォームの研究」調査をもとに、
学校現場で応用できる内容等を明らかにする。

2) 京都府教育委員会で京セラ(株)が実施している

管理職研修等の教育プログラム調査・研究

→これまでのプログラム内容を調査・研究し、教育現場での実施に向けたポイントを明らかにする。
※2006年より実施、3泊4日、主任クラスの現職教員50名程度が対象

3) 立命館附属校における教員研修プログラムの開発(リーダー育成)

→2016年度は教育研究・研修センター(立命館)が主催するスクールリーダー層(学校執行部)、ミドル
リーダー層(中堅リーダ教員)を対象とした各種研修会の実施を上記1) 2) で得られた内容で支援し、
フィロソフィーに基づくリーダー育成研修プログラムを開発する。
→これら研修を通じてより精力的な活動を志向する教員、意欲的に教育実践を行う教員の
勉強会実施等をサポートするなど、今後の附属校教育を担う教員集団の組織化を進める。

3. ③稲盛経営哲学に基づく学校改革のモデル化

【Learning Organization (学びを変革する教育組織をつくる)】

1) A校における学校改革の試行

→A校において稲盛フィロソフィーに基づいた学校経営・教育内容に関して、学校執行部が進める検討の支援を行い、改革案を作成する。

2) B校における学校改革の試行

→B校において、フィロソフィー教育による学校改革の試行に着手する。
学校執行部や幹部教員のフィロソフィー教育からスタートし、全教員へ広げるとともに、学年や教科等の小組織にアメーバ経営を導入し、一学校単位における学校改革のモデル案を作る。

3. ④利他フィロソフィに基づく協働研究者の獲得

【Learning Organization (学びを変革する教育組織をつくる)】

稲盛経営哲学の教育分野への展開を、共に研究し実践する協力者を獲得する。

教職員や人材育成に関わる企業人・市民を対象に、利他の心をモチベーションとする稲盛経営哲学とアメーバ経営による組織開発に関する講演会・先進的なアクティブラーニングに関わるフォーラムを開催。2016年度は全国レベルでの広報集客効果とネットワークづくりを目的に東京・京都で開催する。

1) 連続講演会 (一貫教育部等との共催)

→教職員や人材育成に関わる企業人・市民を対象に、利他の心をモチベーションとする稲盛経営哲学とアメーバ経営の小グループ活動を軸にした組織開発に関する講演会を開催。

- ・開催場所：立命館大学東京キャンパス（教室2：66名定員）
- ・テーマ案：JALに学ぶ学校の組織開発【講師調整中】
- ・参加者：学校改革・組織開発に関心のある学校経営者
RITALABOに賛同くださる企業関係者を想定

2) 教育フォーラムの開催 (一貫教育部・NPO法人留学フェロシップ等との共催)

→先進的なアクティブラーニングに関わるフォーラムを開催。

- ・開催場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス（OIC）
- ・テーマ案：「利他の心×アクティブラーニング（仮称）」【詳細調整中】
- ・参加者：利他教育・先進的なアクティブラーニングの授業実践者、
立命館附属校教諭及び首都圏・関西の私立中高教諭を想定

3. ⑤活動の普及と研究拠点づくり（教育普及事業）

【Instructional Design（教育方法のデザインを変える）】

1) 教育実践研究誌「RITA」及び

Web・メールマガジン・Facebook等活用による教育普及

→教育実践研究誌「RITA」をベースに、稲盛氏の生き方・考え方の根底をなす「利他の心」と教育の関係に着目し、アクティブラーニングをはじめとする授業方法をはじめとする生きる力を伸ばす教育や、学校・学級経営の考え方・手法、稲盛経営哲学研究センターの研究成果等を紹介。教育関係者が実践につなげるための情報を提供するとともに、教育関係者および教育に関心のある市民のネットワークを構築し、研究と実践をつなぐ。

本年度末に「RITA」有料化の検討を進める。

<RITA3号(案)>

- 稲盛和夫氏の青少年期に学ぶ「レジリエンス」の授業
 - ・心理学の「レジリエンス」理論：鍵となる「思い」「考え方」
→大阪大学・平井啓准教授（レジリエンスの研究、ガン患者等への問題解決療法）
小中高校における「レジリエンス」の授業・教員座談会
 - ・立命館守山中学校における「レジリエンス」の授業レポート
- スーパープロフェッショナルスクールにおけるプロジェクト学習 ～播州織とコラボした西脇工業高校の実践～
 - ・高校生のマーケティングにより、播州織小物雑貨をデザイン、商品化
 - ・高校生が企画する播州織を使った若い女性向けのファッションショー
 - ・選抜された一人の女子高校生が、パリでファッションの考え方を学ぶ
- 連載 私の稲盛哲学、INAMORI×EDUCATION

2) ブッククラブ、RITA CAFE（企業人・市民も対象にした広報及び教育普及事業）

→教員の他、教育や社会課題に関心をもつ企業人、市民を対象に、稲盛経営哲学や利他の心、学校教育分野の新たな実践・考え方等を読書会形式（ブッククラブ）、ワークショップ形式（RITA CAFE）で学び合う場を提供。教育現場への参画を促進する。（稲盛経営哲学研究センターの教育実践研究活動と社会との接点）